

授業科目名	【G】 研究会 I・II 【EF】 研究会 I・II	区分 必修	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目					
授業形態	対面授業					
担当形態	単 独	【G】 【EF】				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	スポーツおよび生命・身体をめぐる法と倫理			担当者	松宮智生	
授業概要	【概要】	<p>現代のスポーツにおける法的課題やルールに着目し、現実の事例における課題を解決するためにルールをどのようにデザインし、解釈するのが妥当であるのかを学ぶ。必要に応じて、生命・身体に関する法的・倫理的課題にも射程を広げる（例えば、スポーツにおけるドーピングの問題は、医療技術を用いた人間の身体改造（遺伝子操作等）の問題とも関連するからである）。履修者には、スポーツおよび生命・身体に関する報道・情報のチェックを求める。授業においては、メンバー間での議論と情報交換を積極的に行っていきたい。</p> <p>3年生には、学期末に発表（プレゼンテーション）を、4年生には、卒業論文（またはそれに準ずるレポート）を作成してもらう。</p>				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代のスポーツおよび生命・身体に関する法的・倫理的課題を理解し、論点を整理することができる。</li> <li>・学習内容をもとにテーマを設定し、自らの見解を発表することができる。</li> </ul>				
履修条件	<p>【新3年生】3・4年次の2年にわたって継続履修する意思がある新3年生。</p> <p>【新4年生】3年次における研究会 I・II の単位を取得する見込みであり、4年次に本研究会にて卒業論文を作成する意思がある新4年生。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP（ディプロマ・ポリシー）①	◎	（よく当てはまる）			
	DP（ディプロマ・ポリシー）②	◎	（よく当てはまる）			
	DP（ディプロマ・ポリシー）③	—	（当てはまらない）			
他科目との関連性	「現代社会とスポーツ」「スポーツ社会学」「スポーツ法」で学ぶ内容と関連するテーマが多く扱われる。					
教科書	特になし。					
参考書	特になし。					
評価方法	発表（50%）、毎回のワークシート（50%）、演習における貢献（+α）をもとに総合的に判断する。					
フィードバック方法（※）	発表・コメント内容をもとにメンバー（学生・教員）間で議論を行う。 発表・コメント等に対して教員が講評（対面および文書）する。					
評価基準	授業の内容について理解をし、発表に積極的に取り組んだ者には「S」または「A」、理解・発表に不十分な点がある者にはその程度に応じて「B」または「C」とし、理解・発表いずれも著しく不十分な者にはその程度に応じて「D」または「E」、評価不能は「F」とする。					
その他	特になし。					

授 業 科目名	【 G 】	研究会 I ・ II	区 分	開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
	【 EF 】	研究会 I ・ II	必 修		【 EF 】 3		【 EF 】 2
授業内容	<p>1. スポーツ法およびスポーツ倫理についての学習  次のようなテーマについて学び、論点を整理する。  ・スポーツにおけるルール ・スポーツと暴力 ・スポーツとジェンダー ・ドーピング  ・スポーツと差別 ・スポーツと身体的インテグリティ 等</p> <p>2. 生命倫理についての学習  必要に応じて次のテーマについて学び、論点を整理する。  ・治療とエンハンスメント ・遺伝子治療と遺伝子操作 等</p> <p>3. スポーツ・生命・身体に関する報道等の分析、スポーツ実技における実践</p> <p>4. 発 表  学習内容に基づく分析と発表</p>						
予習内容	<p>本研究会におけるテーマに関連するニュース・報道を調べること。  自分の研究テーマに関する資料を収集すること。  プレゼンテーションの準備をすること。  授業ごとの予習時間は90分程度を目安としてください。</p>						
復習内容	<p>他の受講生や教員の見解と自分の見解とを比較すること。  議論・発表の論点を整理すること。  プレゼンテーションの改善点をまとめること。  授業ごとの復習時間は90分程度を目安としてください。</p>						

科目コード B020-3-Y・B020-4-Y